

令和7年度 香美市こども議会

令和7年11月21日

香美市教育委員会

令和7年度 香美市こども議会会議録

招集の場所 香美市議会議場

会議の日時 令和7年11月21日金曜日 午後2時30分宣告

出席の議員

鏡野中学校

学習委員長	森田陽茉莉	保健委員長	田中結
体育委員長	岩島楓華	生徒会書記	水田大晴
生活・交通委員長	川島彩由奈	生徒会副会長	前田朔太郎
文化・環境委員長	明石空	生徒会長	五藤優大
図書委員長	久保将吾		

説明のため会議に出席した者の職氏名

【市長部局】

市長	依光晃一郎	建設課長	野村文紀
副市長	村上真祥	農林課農政班長	岡村隆史
総務課長	竹崎澄人	商工観光課商工観光班長	濱田さおり
やなせたかし先生顕彰事業推進室長	幾井崇博	環境課長	依光伸枝
定住推進課長	小松伯聖	管財課長	三谷恵司
防災対策課長	中川英斉	ふれあい交流センター所長	原美和子
税務収納課長	猪野高廣	《香北支所》	
市民保険課長	萩野貴子	支所長	石元幸司
福祉事務所長	野邑裕永	《物部支所》	
健康推進課長	川渕美香	支所長	片岡亮
高齢介護課長	中山繁美		

【教育委員会部局】

教育次長	中山泰仁	生涯学習振興課スポーツ班長	影山達也
教育振興課長	前田薫		

【消防部局】

消防長 野口正一

【その他の部局】

農業委員会事務局次長	岡村昭彦	上下水道局長	西村安史
------------	------	--------	------

職務のため会議に出席した者の職氏名

議会事務局長	一圓幹生	議会事務局書記	横田恵子
--------	------	---------	------

議事日程

令和7年11月21日（金） 午後2時30分開議

一般質問

- | | |
|------------|---------|
| ① 学習委員長 | 森 田 陽茉莉 |
| ② 生徒会会長 | 五 藤 優 大 |
| ③ 保健委員長 | 田 中 結 |
| ④ 生徒会書記 | 水 田 大 晴 |
| ⑤ 生活・交通委員長 | 川 島 彩由奈 |
| ⑥ 体育委員長 | 岩 島 楓 華 |
| ⑦ 生徒会副会長 | 前 田 朔太郎 |
| ⑧ 図書委員長 | 久 保 将 吾 |
| ⑨ 文化・環境委員長 | 明 石 空 |

議事の経過

(午後 2時27分 開議)

○議長(五藤優大君) ただいまの出席議員は9人です。定足数に達していますので、これから令和7年度香美市こども議会を開会します。

直ちに、本日の会議を開きます。

議事に先立ちまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、お集りいただきありがとうございます。こども議会の開催に当たって、僕たち鏡野中学校の3年生は、社会の授業で地方自治の意義や公立公正の視点を大切に、インターネットで情報を収集し、意見や質問を考えてきました。考える中で今の香美市の状況を知ることができ、ふるさとと真剣に向き合う良い機会になりました。

今日は香美市の中学生代表として、責任を持って質問していきたいと思います。皆さん、よろしくお願いします。

これから、一般質問を行います。

通告順に従いまして、順次質問を許可します。

1番、3年生、学習委員長、森田陽茉莉さん。

○1番(森田陽茉莉君) 3年、学習委員長、森田陽茉莉です。質問を行います。

空き家問題について。人口数の似ている土佐市と比較し、香美市は空き家が多い現状があると知りました。土佐市ではお家バンク登録を条件とした改修補助、その活用の明示があることで、空き家の数も減少していると分かりました。香美市でも空き家の数を減らす取り組みを通して、地域のコミュニティの活性化、持続可能なまちづくりに取り組んでいると思いますが、どのようなことをしているのか具体的に知りたいです。

以上で私からの質問を終わります。

○議長(五藤優大君) 定住推進課、小松課長。

○定住推進課長(小松伯聖君) 陽茉莉議員の質問に回答いたしたいと思います。

空き家が増えているという問題につきましては、どこの自治体でも困っている問題となりまして、ここに注目いただいたことにありがとうございます。

先日は大分県で大きい火災がありましたけれども、これも空き家が多いということが原因の一つではないと言われておりますように、防災面におきましても重要な課題となっております。

まずは香美市の空き家対策について簡単に説明をいたしますと、まず現状の把握、空き家の把握といたしまして、専門の支援員によりまして市内の空き家の全数のほうを目視でございますが調査をしております。また、所有者からも、まあ所有者も困っちゃうところがありますわね、その相談も受け付けております。相談の周知につきましては、固定資産税の納付書発送の際に、建物の所有者に送られる税金の納付書の

通知があるわけですが、それに空き家相談のチラシを同封したりして、所有者の方に相談に来ていただくよう誘導しております。

相談に来ていただければ、空き家の取り壊しや今後の利活用について、様々な補助制度を香美市でも用意しております。また、空き家バンクという制度を通じて、利用可能な空き家を公表して、主に移住者向けの住居としての活用を促進しております。この内容につきましては、比較いただきました土佐市と同じような取り組みを行っております。

この問題、香美市だけでなく全国の自治体で同じ問題となっております。国や県も全国の市町村を支援している状況でございます。ご提案のありました高めの水準とかいろいろ優遇措置でございますけれども、まあ財政的な問題も考えていかなければならないと思っておりますが、自治体間の競争によって推進を図るものではないと考えておりますので、日本全国で考えなければならぬ問題だと私、考えております。

今回いただいた提案も含めまして、今後も地道に空き家対策に挑んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（五藤優大君） 森田さん。

○1番（森田陽茉莉君） ありがとうございます。空き家を減らすことによって防災に繋がったり、地域だけでなく国全体のこととして考えるということに驚いたし、とても良いことだと思いました。

以上で私からの質問を終わります。

○議長（五藤優大君） 3年生、森田陽茉莉さんの質問が終わりました。
暫時休憩をします。

（休 憩）

○副議長（水田大晴君） 正場に復します。

議長を交代しました。

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、2番、3年生、生徒会会長、五藤優大さん。

○2番（五藤優大君） 3年、生徒会会長、五藤優大です。人口減少についてです。

人口減少により若い働き手が減っています。地域経済の維持、発展のために外国人労働者を増やすことを提案します。ただ、低賃金であったり、コミュニティ不足が生じたり、制度やルールの不満があったり、地域社会等の摩擦問題が生じるリスクがあると考えます。明確な雇用契約、日本語教育と異文化理解を深める必要があると思います。

以上で質問を終わります。

○副議長（水田大晴君） 定住推進課、小松課長。

○定住推進課長（小松伯聖君） 五藤優大議員のご質問にお答えいたしたいと思ひます。

香美市だけでなく多くの地方の自治体では、若い人達が減りまして、働く人が少なくなっているのがとても大きな悩みとなっております。このままでは、まちの元気が無くなってしまふかもしれません。そこで、外国から来てくれる人に働いてもらうことも、大切な考え方の一つだと考えております。国も令和9年度から育成就労制度という新しい仕組みを考えています。また、就労を支える生活の面では、高知県でも外国の方が暮らしやすくなるような応援してくれる仕組みを検討していると聞いております。

外国の方が安心して暮らすためには、先ほどご指摘もございました言葉の問題や生活の慣れない部分など、解決しなければならないことが幾つかあります。市といたしては、生涯学習を担当する部署でボランティアの方々の協力を得ながら、日本語を習得する日本語サロンを既に行っております。また、さまざまな言語でまちの情報やごみの事など、トラブルの多い事柄ですけれども、生活に関する情報をいかに外国の方に伝えるかを検討しております。こうした取り組みで外国から来てくれた皆さんが、まちの一員として安心して暮らせるような香美市にする必要があると考えております。

また、まちの元気の為には、香美市に住む皆さんの理解やご協力も必要でございます。外国の方だけでなく、女性や高齢者の皆さんがもっと働きやすくなることや、お店や会社で新しい技術をもっとうまく使うことで、少ない人数でもっと良い仕事ができるようになることなども、これからどうしていくか考えていかなければならない問題でございます。

これからも多くの皆様と協力しながら、国籍や性別・年齢に関係なく、みんなが安心して楽しく暮らせる元気なまちづくりができるようにしていきたいと考えております。

以上です。

○副議長（水田大晴君） 五藤さん。

○2番（五藤優大君） ご返答ありがとうございました。大きな悩みである異文化理解、日本語教育などは日本語サロンなどで、まちの一員として安心させているというのを聞いて凄く安心しました。これから自分達もこういう問題に関わっていかないといけないと思うので、帰って3年生にしっかり伝えたいと思ひます。

○副議長（水田大晴君） 3年生、五藤優大さんの質問が終わりました。

暫時休憩します。

（休 憩）

○議長（五藤優大君） 正場に復します。

議長を交代しました。

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、3番、3年生、保健委員長、田中 結さん。

○3番（田中 結君） 3年、保健委員長、田中です。質問します。

私は風邪をひいたとき耳鼻咽喉科を受診しています。ただ、病院の数が少ないので凄く混雑します。他の診療科を受診する際は隣の市に行く必要があります。そうなる
と、高齢者や車の運転ができない私たちには不便です。病院の数を増やし、混雑を避
けたり、高齢者の負担を減らしたいと考えます。その為、外部との連携の強化や病院
数を増やすことを提案します。また、香美市で病院の数についてどのように考えてい
るのか知りたいです。

以上で質問を終わります。

○議長（五藤優大君） 健康推進課、川渕課長。

○健康推進課長（川渕美香君） 田中 結議員さんの質問にお答えいたします。

香美市内には現在17カ所の医療機関があります。入院のためのベッドの数が20
以上ある医療機関を病院と言いまして、香美市には3病院あります。ベッドの数がゼ
ロから19までの医療機関は診療所と言われ、香美市には14の診療所があります。
この17カ所の医療機関のうち13カ所が土佐山田地区に、3カ所が香北地区、1カ
所が物部地区にあります。香美市の中でも土佐山田地区へ集中している状況にありま
す。

今回提案していただいたように新しい病院ができれば、一つの医療機関に患者さん
が集中することもなく、遠くの病院へ行かなくても済むことになるかもしれません。
しかし、例えば香美市が新しく大きな病院を造るには、学校を一つ建てるくらいのお
金がかかったり、建てる広い土地が必要になったり、そこで働いてくださるお医者さ
んや看護師さん、その他の給食の人とか事務さんとか沢山の方を雇うことになり、予
算的にもなかなか難しい状況であると感じています。

外部との連携については、風邪や腹痛など比較的普通にある症状については近くの
診療所で診ていただき、その診療所のお医者さんがもっと大きな病院で詳しく診ても
らったほうが良いと判断された場合には、大きな病院を紹介してくれる取り組みや、
泌尿器科などは高知大学医学部附属病院のお医者さんに週一回来てもらって診療して
いるというように、連携をして開いているような診療科もあります。

最近はお医者さん不足になっていて、香美市だけではなく高知県全体で問題になっ
ています。お医者さんになるには大学でとても長い時間勉強をして、難しい試験に合
格しないと入れないので、直ぐにお医者さんを増やすというのは難しい状況です。是
非とも皆さんの中から将来お医者さんになる方がいらっしゃいましたら、香美市でお

医者さんとして働いていただけると嬉しいと思います。

以上です。

○議長（五藤優大君） 田中さん。

○3番（田中 結君） ありがとうございます。香美市の病院や診療所の状況について知ることができて、病院などを造るには沢山の課題があるということが分かりました。それについて香美市に沢山考えていただけていることから、これからより安心して生活していけると感じました。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（五藤優大君） 3年生、田中 結さんの質問が終わりました。

次に、4番、3年生、生徒会書記、水田大晴さん。

○4番（水田大晴君） 3年、生徒会書記、水田です。質問をします。4年前にも提案した外灯設置について、どのくらい進んでいるのか知りたいです。

下校時に街灯が少なく危険だということが何回もありました。また、山間部に住んでいる人は、動物が急に出てくる危険があり怖いと言っていました。その為、通学路の細い道や山路などに街灯を増やしてほしいです。また、内容とは少し異なりますが、山田高等学校北側の道路から西に曲がる場所は、車が急に出てくる危険があるためミラーを付けてほしいです。

質問は以上です。

○議長（五藤優大君） 防災対策課、中川課長。

○防災対策課長（中川英斉君） お答えします。大晴さん、街灯の少なさについてご心配いただいていると、特に下校時や山間部での動物との遭遇など、具体的な危険を感じていることがよく分かりました。

まず、香美市としても、皆さんが安全に過ごせるよう、街路灯などの照明の重要性は強く意識しています。国などの基準でも、交差点や横断歩道、歩道、橋梁、駅前広場など、特に歩行者などの交通弱者の安全を考慮すべき場所には、照明の設置が望ましいとされています。香美市でも、市街地の新しい道路には可能な限り設置を進めており、例えば山田小学校の西側に令和5年12月25日に開通した新町西町線に新たに8本の街路灯、道路の照明が設置されました。既存の照明5本のLED化と合わせて合計13本が新しくなっております。今後もできる限り設置していきたいと考えています。

しかしながら、街灯の設置には幾つかの課題もあります。限られた予算の中では設置後の管理費用も考慮しなければなりません。また、場所によっては明るくなったことで農作物の育成に影響が出たり、夜間に光が差し込むことで住民の方から夜眠れないといった苦情が出たりすることもあり、設置できる場所が限られているというのが現状です。

こうした課題のある中で、街路灯とは少し明るさが異なりますが、地域の防犯に役

立つ防犯灯というものがあります。防犯灯については、地域の住民の皆さんの安全の為、自治会長さんなどの地域の団体から申請によって設置できる制度があり、市としても設置を進めています。これまでの取り組みとして、4年前のご質問以降、香美市全体では新たに36カ所の防犯灯が増え、市全体では1,996カ所に設置されています。

防犯灯は主に地域で管理していただく形になりますが、電気代は市が100%負担しています。近年、電気料金は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響や再生可能エネルギー導入量の増加など、様々な要因により以前に比べて上昇傾向があります。市としましては、皆さんの安全を地域全体で守っていく為、引き続き全額負担を継続しており、地域の皆様にもご協力をいただきながら設置をお願いしているところです。

大晴さんのように、実際に危険な場所を知っている中学生の皆さんの声が地域にとって非常に重要です。是非、今回あなたが気付いた下校時の防犯灯が欲しい場所について、学校の先生、あるいは地域の自治会長さんなどに相談してみてください。また、山田高等学校北側の道路から西に曲がる所のカーブミラーについては、教育委員会が主体となって運営している通学路安全対策連絡協議会で要望を上げるのが良いと思いますので、まずは学校の先生に相談してほしいと思います。皆さんの声がきっかけとなって、地域の皆さんが安全に過ごせる環境づくりに繋がる可能性があると思います。

市としましては、今後も限られた予算の中ではありますが、皆さんの命と安全を守る者として、大晴さんの具体的なご指摘も含め、地域からの要望に精一杯対応していきたいと考えています。安全な通学路の確保は重要な課題であり、引き続き地域の皆さんと協力しながら改善に努めてまいります。

以上です。

○議長（五藤優大君） 水田さん。

○4番（水田大晴君） 質問の返答ありがとうございました。街灯の設置には幾つかの課題があり、設置後にも沢山の課題があると改めて知ることができました。質問を考えてくれた生徒にまた伝えたいと思います。ありがとうございました。

○議長（五藤優大君） 3年生、水田大晴さんの質問が終わりました。

次に、5番、3年生、生活・交通委員長、川島彩由奈さん。

○5番（川島彩由奈君） 3年生、生活・交通委員長、川島です。生活補助について質問します。

人口減少による行財政の運営の厳しさがあると知りました。その為、人口の少ない山間部などに生活補助が行き渡っていないのではないかと考えます。山間部の住民に対して、道路整備や移住者を増やす取り組みを提案します。また、香美市はどのような対応をしているのか教えてください。

質問は以上です。

○議長（五藤優大君） 定住推進課、小松課長。

○定住推進課長（小松伯聖君） 生活・交通委員長、川島議員の質問にお答えいたしたいと思います。

香美市は山林が約9割を占めております。ただ平野部に多くの方が住む一方、今も山間部で暮らす皆さんも沢山、勿論いらっしゃいます。市では、山間部の皆さんがこれからも安心して快適に暮らせるよう、様々な取り組みを行っております。

勿論、道路整備につきましては、特に山間部の道路に関しましては、そこに住む方の生活に欠かせないものですので、限られた予算の中ではありますが、特に傷んだ場所や危ない場所から修理や改良を進めております。

また、中山間部の地域を元気にするためには、これも多くの事業を行っております。特に集落活動センターという運営事業というものに香美市は力を入れております。これは地域の方が中心となって自らが課題解決に取り組む活動で、山間部で地元の方が欲しがっていたレストランをやったり、労働力不足に悩む地域で草刈りをやったり、地域の特産品を開発したりと、過疎高齢化で疲弊した中山間地域において、自らが中心となって様々な問題解決に取り組んでおります。市内には3カ所の集落活動センターを設置しておりまして、香美市としては、これらを人的・財政的に、強力で支援しておるところでございます。

更に申せば、住民の方々に香美市に来てもらうということも重要と考えております。まあ移住のこととなります。市は民間法人と連携して様々な移住施策を行いまして、転入者が転出者を超える社会増を現在実現できております。高知県の補助も活用いたしまして、移住者や出生数、人口を増やす為の人口減少対策も現在進めております。

対策は以上となっております。ありがとうございました。

○議長（五藤優大君） 川島さん。

○5番（川島彩由奈君） ありがとうございました。安心、快適に暮らせるように、傷んだ場所や危ない場所を取り除く様々な取り組みや政策を行っているの聞いてとても安心しました。ありがとうございました。

○議長（五藤優大君） 3年生、川島彩由奈さんの質問が終わりました。

次に、6番、3年生、体育委員長、岩島楓華さん。

○6番（岩島楓華君） 3年、体育委員長、岩島です。質問します。

隣町の香南市と比較し、香美市はフランチャイズやその他の飲食店が少ないです。高齢化や後継者不足などの閉店が原因の一つであると分かりました。飲食店の減少は高齢化が進んでいるからだと考えます。補助金や助成金で経営支援を増やすことを提案します。

また、少子高齢化についてどのような政策をしているのか具体的に知りたいです。

以上で質問を終わります。

○議長（五藤優大君） 商工観光課、濱田班長。

○商工観光課商工観光班長（濱田さおり君） お答えします。

飲食店が減ると、地域の人が外食する場所や交流の場が少なくなり、買い物や外出が不便になります。また、観光客が減ったり、若い世代が地元で働きたくなくなる原因にもなります。したがって飲食店の減少は、生活の質や地域の賑わいに関わる重要な問題です。

現在、本市での飲食店減少に対する具体的な取り組みとしましては、香美市商工会と連携して、空き店舗や新しく飲食店、これは飲食店には限りませんが、何か新しく事業をしたいという事業者に対しまして、店舗の改修費用等の経費の一部を補助する制度を整えております。

今回、議員からご提案のありました飲食店の減少に対する補助金や経営支援については、今後、新たな制度設計の必要性や既存制度の改善など効果的な方策を考えて参ります。なお、高知県の制度では、高齢化などの事情で営業を続けることができなくなった店主と若者を繋ぐ後継者の支援も行っております。

また、地域の店舗でお買い物や飲食をしてもらうことで、香美市内でお金が循環して香美市の店舗の経営が安定していく取り組み、地域電子マネーk a m i c aを令和3年度から運用を開始しております。ご利用されることでポイント還元されるお得なキャンペーン、また毎月15日は「k a m i c aの日」というのはご存知かもしれません。現在、地域限定でk a m i c aアプリを使ったデジタルスタンプラリーを行っております。香美市内の観光スポット、土佐山田町内のキャラクターマンホールを巡ってスタンプを集めてもらうと、ポイントや素敵な景品を差し上げています。予算の範囲内で先着順という条件もありますが、是非皆さん、ご家族を含めて参加をお願いいたします。

このように香美市内で楽しみながらk a m i c aを使ってもらうこと、香美市に愛着を持っていただくこと、店舗が安定的に経営できることが飲食店の減少にも効果があるのではないかと考えます。

冒頭にも触れましたが、飲食店が減ると商店街や交通利用が減り、また住環境の魅力が下がって若年世代が減っていくという悪循環が生じます。今回、少子高齢化の原因の一つとして飲食店の減少を取り上げていただいたところですが、この少子高齢化問題は、先ほど申し上げた補助金や地域電子マネーk a m i c aだけで解決に至るとまでは言い切れません。

市民が健康で安全安心に生活し働けること、若者の居住・就労環境の整備など、行政が様々な分野で施策を講じていくべき課題があります。市民の皆さんのご理解とご協力と共に進めなければならないと感じております。

以上です。

○議長（五藤優大君） 岩島さん。

○6番（岩島楓華君） ありがとうございます。買い物や飲食店でk a m i c aを用いて、香美市に愛着を湧かせているということを知りました。これからも少子高

齢化について考えていきたいと思えます。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（五藤優大君） 3年生、岩島楓華さんの質問が終わりました。

次に、7番、2年生、生徒会副会長、前田朔太郎さん。

○7番（前田朔太郎君） 2年、生徒会副会長、前田です。教育長不在についてです。

教育長が不在だと重要な予算分配、教育改革における方向性が決まりにくく、教育活動が停滞すると調べて分かりました。学校設備の設計計画、教職員人事など多岐に亘る重要な意思決定などが停滞し、教育委員会全体の機能が低下するのではないかと考えています。そうすると鏡野中学校の生徒総会で出た意見や要望が直ぐに反映されないのではないかと懸念しています。その点がどのようになっているのか知りたいです。

○議長（五藤優大君） 依光市長。

○市長（依光晃一郎君） 前田議員のご質問にお答えをいたします。まずもって中学生の皆様方に教育長不在ということでご心配をお掛けしていることにつきましてお詫びを申し上げます。

教育長は長期間不在となっておりますが、教育委員会事務局の職員や校長先生とはコミュニケーションを取らせていただいております。学校設備の計画的な更新や修繕につきましては、問題なく対応できていると考えております。また、市の予算を使った外国人の先生やスクールソーシャルワーカーさんなどをお雇いする市独自の人員配置につきましても、他の市町村に負けない対応をさせていただいていると思っております。

一方で、生徒総会にて市役所に要望を出されていることを今回初めて知りました。私としましては、そのご要望全てについて目を通させていただき、市長部局でできることは予算を含め対応をいたします。また、中学生からのご要望は直接お聞きしたいと思っておりますので、ご要望をいただきましたら、日程調整をして、お昼休みや放課後などに鏡野中学校にお伺いし、ご意見をお聞きいたします。

○議長（五藤優大君） 中山次長。

○教育次長（中山泰仁君） お答え申し上げます。ご質問をいただいた前田議員さん初め生徒の皆さんが日々学校生活で不安を感じられていること、本当に申し訳ない思いで一杯でございます。

昨年5月から教育長の不在が続いておりますが、これまでの間、香美市におります4人の教育委員の中から、教育長の代わりを務める職務代理者を選んでおります。この職務代理者が司令塔となりまして、教育振興基本計画、これは香美市の教育活動の基本となる計画でございますが、この計画に基づいて事業を着実に進めております。本来であれば、このご質問にも職務代理者がお答えするところではございますが、本

日は安芸市でどうしても出席しなければならない業務がありまして、私が代わり答弁させていただきます。

教育長が不在になっているとは言いましても、学校と教育委員会を繋ぐパイプが全く無くなってしまったというわけではございません。皆さんの声は以前と変わらず届いております。令和6年度、昨年度でございますが、このこども議会において提案された、香北中学校の要望がその後実現したという例も今年に入っております。

教育委員会としましては、これからもしっかりと、そして全力で皆さんの学校生活をサポートして参りたいと思っておりますので、安心して勉強・クラブ活動に取り組んでいただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（五藤優大君） 前田さん。

○7番（前田朔太郎君） 職務代理者がいるそうで僕たちも安心しました。また、部活動が地域展開をしていると聞いています。この地域展開にも力を入れていってもらいたいです。ありがとうございました。

○議長（五藤優大君） 2年生、前田朔太郎さんの質問が終わりました。

次に、8番、3年生、図書委員長、久保将吾さん。

○8番（久保将吾君） 3年、図書委員長の久保です。質問をさせていただきます。

大人の娯楽施設であるパチンコ店が2店舗ありますが、子どもの屋内娯楽施設は少ないと感じています。パチンコ店のように敷地の広い、未成年でも遊べる屋内施設があると、観光客が増えたり移住者が増えたりするのではないかと考えます。香美市はこれに対してどのように考えているのか教えてください。

質問は以上です。

○議長（五藤優大君） 商工観光課、濱田班長。

○商工観光課商工観光班長（濱田さおり君） お答えします。

未成年向けの屋内遊び場を整備してほしいというご質問をいただきました。特に若い世代の皆さんの声は、まちづくりを進める上で大変重要だと考えております。

まず、遊び場の「遊び」とは非常に広い概念で、楽しむ、自由・自主性、想像力・創造性、協力・競争、コミュニケーション、学習・課題解決、伝統的な遊び、祭り、スポーツなどが考えられます。

未成年の遊べる屋内施設の例えば、eスポーツ・ゲームセンター、学習や交流スペース、音楽・ダンス・ものづくりスタジオ、小規模イベントホールなどを想像します。このうち空き家店舗などを改修して新たに事業を始める経営者に対して、この改修費用の一部を補助する制度がございます。民間事業者ができることはお任せしたほうが良いという考え方です。しかし、この制度を活用して皆さんが楽しめる店舗を始めるというお話は今のところ把握しておりません。

先ほど申し上げた屋内施設の例のうち、学習や交流スペース、音楽・ダンス・もの

づくりスタジオ、小規模イベントホール、既にある本市の施設の活用はできるのではないかと考えます。それでも解決しない場合、未成年向けの遊び場をどのように提供していくかという課題について、行政機関だけではなく、皆さんや多くの市民のアイデアも欠かせません。例えば、新たに施設を整備するとなった際には様々な課題と向き合う必要があるからです。

子どもや若者の皆さんが安心して遊べる場所づくりは、地域の魅力向上や子育て支援に繋がる重要なテーマです。今回いただいたご意見は、今後の施設整備や施策を検討する際の参考とさせていただきますと考えています。

以上です。

○議長（五藤優大君） 久保さん。

○8番（久保将吾君） ありがとうございます。とても参考になりました。

○議長（五藤優大君） 3年生、久保将吾さんの質問が終わりました。

次に、9番、3年生、文化・環境委員長、明石 空さん。

○9番（明石 空君） 3年、文化・環境委員長、明石です。ふるさと納税について提案します。

本市のふるさと納税寄附額は、2022年度は約2億円、2023年度が約1.2億円と近年減少傾向にあります。一方、類似規模の広島県安芸高田市は2022年度に約2億円、2023年度には約4.7億円と同時期に寄附額を大幅に増加させています。香美市は、ふるさと納税による歳入確保と地域振興に力を入れているのか知りたいです。また、香美市の魅力を伝えられるモノや体験など、返礼品の見直しを提案します。

○議長（五藤優大君） 定住推進課、小松課長。

○定住推進課長（小松伯聖君） 明石議員の質問にお答えしたいと思います。

ふるさと納税で一番のメリットの返礼品は人気によるものが多いのですが、多くの寄附を集めている返礼品といたしましては、全国的に肉・米・魚・果物・日用品が上位を占めている状況でございます。香美市におきましても、ゆず、ニラ、ねぎ、生姜など世界に誇れる商品もございますけれども、そのまま消費されるものではないということで、返礼品になり得ない状況があります。香美市の主力返礼品といたしましてはお菓子や家具等でありまして、これらは全国的な人気の上位に位置する、分類するものではございません。また、生産・加工を行う事業者も少ないのが現状でございます。令和6年度においては、県内34市町村の中でも寄附受入額は21位、市の中では11市中最下位となり、振るわない結果となっております。ご心配をおかけしております。そのため、市では返礼品提供事業者の拡充や返礼品数の増加に取り組んでいますが、依然としてこのような人気カテゴリの返礼品を提供することは難しいという状況にはあります。

しかしながら、ふるさと納税の本質というものは、地域を応援したいという寄附者

の思いを大切にすることをごさいます。香美市でも魅力をより多くの寄附者に伝えるため、今後はアクティビティや宿泊などの体験型返礼品にも注力していきたいと考えていますし、さらに個人版ふるさと納税だけでなく、企業からもふるさと納税をいただく企業版ふるさと納税にも力を入れ、更に、新たにクラウドファンディングを実施するなど、あらゆる方面から寄附額の増加を目指す取り組みを進めて参りたいと思っております。

以上でございます。

○議長（五藤優大君） 明石さん。

○9番（明石 空君） ご返答ありがとうございました。あらゆる方面から返礼品の増加に取り組んでいるということが分かりました。

○議長（五藤優大君） 3年生、明石 空さんの質問が終わりました。

以上で今こども議会に付された事件は全て議了しました。

こども議会終了に当たり、市長から発言を求められておりますので、これを許可します。依光市長。

○市長（依光晃一郎君） こども議会の閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます

こども議会に参加されました9人の中学生の皆様方、本当にお疲れ様でございました。一つ一つの質問について、皆様方がしっかりとインターネットを含めて、あるいはいろんな情報収集をして考えられたことが分かる、本当に素晴らしい質問でありました。執行部としましても、その質問に対してどうお答えしたらいいのかということで、非常に頭も悩むことにもなりました。それだけ素晴らしい質問もされましたし、また今日の質問も堂々とされたこと、本当に頼もしく思いました。

また、執行部からの答弁を聞いた後に、自分で考えたことをしっかりと言葉にしてお答えもいただいたこと、そのことについても本当に感心を致しました。

香美市としましては、先ほど教育長の問題もお聞きいただいたわけですが、香美市は保育園・幼稚園から高校、大学、そして社会人の教育にも力を入れたいと思っておりますし、部活の地域移行の話もありましたけど、やはり、みんなで学び合うまち「探究のまち香美市」ということで、そんなまちづくりをしていきたいと思っております。

皆さんの中学生生活、3年生が多いということなので、これからの進路とかいろいろ考えると思いますけど、社会の成り立ちに是非とも興味を持っていただいて、そして自分がどういったことで社会に貢献できるだろうか、そして社会に貢献する、ありがとうと言われることは、人生を輝かせることにも繋がるんだと思います。

中学生でありますので、これからいろんなことも悩まれると思いますが、先生方やご両親含めていろんな方に、お友達にも相談しながら、しっかりと進路を見つけていただいて、そして、願わくは香美市で一緒になってまちづくりをさせていただきなあ、そういうふうに思いました。

市役所だけが全ての市のことをやっていけるわけではなくて、住民の皆様方と力を合わせて、先日まであった朝ドラ「あんぱん」というのも、市役所だけではなくて住民の皆さんにも助けていただきましたし、地域の学校の生徒さんが歌を歌ってくれたりであるとか、皆様方も何らかの形で関わってくれたのではないかなと思います。

まちづくりはみんなで作るものであるし、地方自治というのはみんなの意見を聞きながら、そしてその理想に向かってみんなで一緒に盛り上げていくもんだろうと思っています。皆様方がこれからも学びを深められ、そして素晴らしい、これから高校、また社会へと繋がっていくんだと思いますので、そういった前途を期待いたしまして、私の閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○議長（五藤優大君） ありがとうございました。それでは、閉会に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

本日は僕たちの質問に分かりやすく返答していただきありがとうございました。学校に帰って3年生にも伝えます。僕は今日の返答を聞いて、多くの人に支えられて学校生活を送れているのだと実感しました。その他にもいろいろな知らないことが沢山あると感じました。なので、これから香美市について沢山知り、自ら行動を起こしていきたいと思います。今回の活動を通して、遠くの存在だった政治が一気に身近なものに感じることができました。

今、若者の投票率の低さが大きな問題となっています。私たちは3年後には選挙権が与えられます。その時にはこのこども議会を思い出し、どのようにすれば香美市がもっと良くなるかを考え、清き一票を投じることで政治に参加していきたいと思えます。このような機会をいただきありがとうございました。今日は本当にお疲れ様でした。

以上をもちまして令和7年度香美市こども議会を閉会いたします。皆さん、どうもお疲れ様でした。

(午後 3時17分 閉会)